

金城佳隆先生を講師に三線（クラブ）で沖縄文化を学ぶ

島尻教育研究所の長期研修の1つに「クラブ」があります。日本の文化や沖縄の文化にふれてもらうために、書道や三線、琉球料理などが主な内容となっています。

7月25日（金）に、元三和中学校長の金城佳隆先生を講師に、「三線」のクラブを行いました。慣れない三線を手に5名の教育研究員は、和やかな雰囲気の中、音を奏でていました。

クラブ三線の内容

- 講師紹介
- 自己紹介
- 三線について
 - ・三味線の各部分名称
 - ・三味線の歴史
 - ・三味線の持ち方
 - ・調弦（ちんだみ）本調子，一二揚，二揚
 - ・工工四の読み方と弾き方
 - ・沖縄の方言について
 - ・民謡と琉球古典音楽について
 - ・琉球舞踊について



写真1 三線（クラブ）の様子



写真2 講師の金城佳隆先生と教育研究員



研究員の感想

○今日から、クラブ三味線が始まりました。以前、三味線で「チューリップ」を弾いたことがあります。でも、それ以外は弾けないので家でも娘や姪に教えてもらい、練習していきたいです。

佳隆先生に、沖縄のことをたくさん教えていただきました。ゆっくりとわかりやすく丁寧に、そして楽しく教えて下さるので、次のクラブが楽しみです。（金城睦子）

○初めてのクラブで三線がありました。沖縄の文化である三線について、実物を見たり、映像で見たり、演奏を聴いたりするのはするのですが、手にして直に触るのが初めてだったので嬉しくなりました。

実際に、ドレミの音一つずつ出すだけでも楽しかったです。工工四の読み方も覚えて、早く曲が弾けるようになりたいです。（上原馨）

○三線に触ることも初めてだったので弾けるかなと不安でした。金城先生のわかりやすい説明を聞くと出来そうな気がしました。真新しい三線を手にして、開放弦で弾くと簡単に音が出たので楽しかったです。でも、指で弦を押さえながら弾くことが少し難しいと感じました。まずは、工工四の読み方を早く覚えて、曲が弾けるように練習を頑張りたいです。（下地こず恵）

○父が三線をよく弾いていたので、前々から興味があり、三線を弾いてみたいと思っていました。ただ思うだけで前に進めずにいたので、今回教わる機会をいただけたことに感謝したいと思います。

金城先生のお話を聞き、三線の歴史を知るとは、沖縄の歴史を知ることにもつながるのだと感じました。「ウチナーンチュが、沖縄のことを話せなくてどうする」という言葉がとても心に響きました。

これから、1曲でも多く演奏できるように頑張りたいと思います。また、三線の歴史についても少しずつ勉強していこうと思います。（仲門学）

○生まれて初めて三線を弾きました。研究所の20周年で購入した真新しい三線を手にするのは私たちが最初なので、テンションがあがりました。三弦をつま弾くと音が出ることに感動し、上手には弾けなかったのですが、とても楽しかったです。

沖縄のすばらしい文化に触れる機会を得られて幸せだと思いました。このチャンスに頑張っって1曲は弾けるようになりたいと思いました。（横田純子）

